<認知症対応型共同生活介護用>

外部評価

外部評価項目構成

	項目数
Ⅰ. 理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

訪問調査日	平成20年6月23日
調査実施の時間	開始10時30分 ～ 終了15時45分
訪問先事業者名 調査実施の時間	グループホーム こころ小城
	5時間15分

主任調査員	中原 るり子
調査員	江里口 巧見子

事業所側対応者	職名 管理者
	氏名 鶴 メイ子
	ヒアリングを行った職員数(1)人

※記入方法

●[取り組みの事実]欄は、ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入してください。

●[取り組みを期待したい項目]欄は、確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけてください。

※項目番号について

●外部評価は30項目です。

○「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

○「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

※ 用語について

●家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含む。

●運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

●職員＝「職員」には、管理者および常勤職員、非常勤職員を含む。

●チーム＝一人の人を関係者・職員はもとより家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含む。

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	4171300124
法人名	有限会社　こがホーム
事業所名	グループホーム　こころ小城
所在地	佐賀県小城市小城町晴気中善寺2370－4 （電　話）0952－72－1077

評価機関名	佐賀県社会福祉協議会		
所在地	佐賀市鬼丸町7番18号		
訪問調査日	平成20年6月23日	評価確定日	平成20年9月16日

【情報提供票より】（平成20年6月15日事業所記入）

（1）組織概要

開設年月日	平成　14　年　12　月　1　日	
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計　9　人
職員数	9　人	常勤　3　人，非常勤　6　人，常勤換算　4．3　人

（2）建物概要

建物構造	木造1階建て

（3）利用料金等（介護保険自己負担分を除く）

家賃（平均月額）	31,000　円		その他の経費（月額）	9,300円＋実費
敷　金	無			
保証金の有無 （入居一時金含む）	無		有りの場合 償却の有無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり　800　円			

（4）利用者の概要（　6　月23　日現在）

利用者人数	9 名	男性	3 名	女性	6 名
要介護1	2	名	要介護2	3	名
要介護3	4	名	要介護4	0	名
要介護5	0	名	要支援2	0	名
年齢　平均	83 歳	最低	76 歳	最高	95 歳

（5）協力医療機関

協力医療機関名	ひらまつ病院、さくら歯科医院、神野病院

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

小城市北西部の天山に程近い集落にあり、周りには田畑や川等もあって自然環境に恵まれたホームである。ホームは昨年11月（7ヶ月前）に現在地に移転しており、地域の人達からも温かく受け入れられている。ホームの建築にあたっては、入居者が安全で自由に暮らせるための見守り支援に配慮した工夫も取り入れられている。職員は、利用者を常に温かく見守り、それぞれのペースでその人らしく暮らせるように支援している。また、職員は、サービスの質の向上の大切さを認識しており、常勤、非常勤を問わず外部研修にも積極的に参加し、9名中8名が認知症介護実践研修を受講している。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	**前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況（関連項目：外部4）** 生活空間作りやサービスの質の向上のための研修等が課題となっていたが、管理者をはじめ職員の努力により改善が図られている。 **今回の自己評価に対する取り組み状況（関連項目：外部4）** 職員は評価の意義を十分に理解し、全員で自己評価を実施している。
重点項目②	**運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み（関連項目：外部4, 5, 6）** 運営推進会議では、ホームの状況や行事、今後の取り組み等を伝えて意見交換を行い、サービスの向上に活用している。なお、会議には、他事業所の管理者等の参加を得ることもある。次回の会議では、今回の評価結果を報告し、更なるサービスの質の向上に取組むこととしている。
重点項目③	**家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映（関連項目：外部7, 8）** 玄関に意見箱を設置したり、面会時には繰り返し声をかけ、意見や苦情等を聴くようにしている.請求書発送時にも苦情相談のための用紙を添付する等、意見や苦情の表出の機会づくりにつとめている。
重点項目④	**日常生活における地域との連携（関連項目：外部3）** 昨年11月に現在地に移転しており、移転時には、地域への説明会や見学会、挨拶回り等を行い温かく受け入れられている。自治会にも加入しており、会議や地区活動にも参加し交流を図っている。また、地区のごみ置き場の清掃には、自主的に取り組み入居者と共に行っている。

2. 評価結果（詳細）

（ ▒ 部分は重点項目です ）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
Ⅰ．理念に基づく運営					
1．理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「第二の家族としてお付き合いします。自由に楽しい時間を過ごす事ができるように援助します。地域との関わりを大切にします」等、地域密着型サービスの役割を反映した理念が作りあげられている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者や職員はミーティングや日常の業務の中で理念の共有を深め、日々その実践に取組んでいる。		
2．地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	昨年11月に現在地に移転しており、移転時には、地域の人達への説明会や見学会、挨拶回り等も行い温かく受け入れられている。自治会にも加入し会議や地区活動に参加している。また、地域のごみ置き場の清掃には自主的に取組み、入居者と共に行っている。近所の方からは野菜等の差し入れを頂くこともある。		
3．理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者や職員は評価の意義を十分に理解しており、自己評価にも全員で取り組んでいる。なお、外部評価で見出された課題についても改善を図り、サービスの向上に努めている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議は2～3ヶ月毎に開催されており、ホームの状況や行事、今後の取り組み等を伝えて意見交換を行い、サービスの向上に活用している。なお、会議には他事業所の管理者等の参加を得ることもある。次回の会議では今回の評価の結果を報告し更なるサービス向上に取組むこととしている。		

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市や町の担当者とは気軽に相談できる関係にあり、積極的に情報交換や課題解決のための相談をし、サービスの質の向上に取組んでいる。		
４．理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の面会が多いので、主に面会時に、日々の様子や健康状態、金銭出納等について報告している。なお、医療機関への受診後にはその都度電話で報告をしている。また、家族によってはメールを活用することもある。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱を設置したり、面会時には繰り返し声もかけている。請求書の送付時には苦情相談のための用紙も同封している。なお、重要事項説明書や契約書には苦情受付窓口が明示されている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動はほとんど行われていない。以前、管理者が交代した時には、退職後にも時々顔を見せてもらうなど利用者へのダメージ防止に配慮している。		
５．人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者や職員は研修の大切さを認識しており、外部研修の受講にも積極的に取組んでいる。ほとんどの職員（9名中8名）が認知症介護実践研修を受講している。なお、外部研修受講後は会議の折などに他の職員へ伝達し周知を図っている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県のグループホーム協会に属しており、研修会の折には、他の事業所の職員と情報交換を行っている。なお、運営推進会議には他事業所の管理者等の参加も得る等し、サービスの質の向上に取組んでいる。また、他の事業所の職員と共に外部で「1日研修」を行う等の交流を図っている。		

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1．相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人や家族が安心し、納得した上での利用となるように工夫している。職員が繰り返し自宅訪問をし顔馴染みとなることから始め、その後、家族と共にホームを訪れてもらったり、宿泊を体験してもらう等、徐々に馴染みながらの利用となるように支援している。		
2．新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は利用者を第二の家族として敬い、常に、心の変化にも関心を寄せ喜怒哀楽を共にしている。利用者からは料理や日常生活の知恵を学ぶことも多い。		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1．一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の会話や表情等から希望や意向を把握し、それに添うように努めている。		
2．本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映した介護計画を作成している	本人や家族、必要な関係者と話し合い、本人本位の介護計画作りに取組んでいる。職員は毎月の会議や日常の業務の中でも意見交換を行い計画作りに活用している。なお、介護計画には、本人や家族の意向が明示されている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画は3ヶ月毎に見直しを行い、現状にそった計画で支援している。状態に変化が生じた場合にも速やかに計画の見直しが行われている。見直し時には、随時、本人や家族の意向を確認している。		

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
３．多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人や家族の状況に応じ、通院や個人的な買物等柔軟に支援している。		
４．本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者は全員、以前からのかかりつけ医を受診されている。なお、職員は主治医とも良好な関係にあり、適切な診療を受けられるように支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	運営方針としては、重度化や終末期の支援を対象としていない。しかし、契約時やその後においてそのことが十分に説明されているとは言い難い。	○	契約時には、本人や家族に対し重度化や終末期の支援に対するホームの方針を明確に説明し、納得と同意のもとにサービスを提供することが望まれる。
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 １．その人らしい暮らしの支援 （1）一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は利用者を人生の先輩として敬い、誇りやプライバシーに配慮した言葉かけと対応をしている。また、個人情報の取扱いにも十分配慮している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	理念にも「自由に楽しい時間を過ごす事ができるように援助します」と謳われており、利用者一人ひとりの意向とペースを大切にした暮らしとなるように支援している。		

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
（2）その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者は職員と一緒に調理や盛付け、配膳、後片付け等をされている。職員も一緒に同じ食事を食べながら楽しい雰囲気づくりにも配慮している。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	基本的には毎日の入浴としているが、本人の意向に沿って支援している。時には、近隣の福祉センターの温泉を利用することもあり、利用者に喜ばれている。なお、入浴拒否をされる場合には、時間をおいたりするなどして入浴を支援している。		
（3）その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	それぞれの生活歴や力を活かした支援に取組んでいる。園芸や掃除、食事の準備や片付け、洗濯物たたみ等それぞれに力が発揮されている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	日常的に散歩や食材等の買物に出かけている。また、時には外食に出かけることもある。		
（4）安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	昼間は玄関の鍵はかけられておらず、自由に出入りができる。利用者の外出傾向は職員の連携で見守られており、外出希望時には止めることなくさりげなく付き添い、その意思に添うように支援している。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の協力を得ながら、毎年2回、防災及び避難訓練を行ってはいるが、近隣の人達への参加や協力を得た訓練の実施にまでは至っていない。	○	地域の人達の訓練への参加が得られるように、自治会や運営推進会議等を通じた働きかけも必要である。また、勤務者の少ない夜間を想定した訓練の実施や、実情に添った連絡網の整備の検討も期待したい。

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
（5）その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分の摂取状態はその都度把握し記録している。献立は栄養のバランスにも配慮しており、2週間毎に体重測定も行っている。また、利用者の体調や機能に合わせ食物の形態にも工夫をしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり （1）居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関前には、季節の花や野菜がプランターに植えられており季節感を漂わせている。食堂兼居間は採光も良く、また、居間には家庭的雰囲気の家具や調度が置かれており、利用者が思いおもいの場所で寛ぐことが出来る空間がある。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	職員は、家族に対して家での馴染みの品の持込を働きかけ、安心できる居室作りを支援している。それぞれの居室には、鏡台や寝具、家族の写真、時計、カレンダー、椅子、化粧品等が持ち込まれている。		